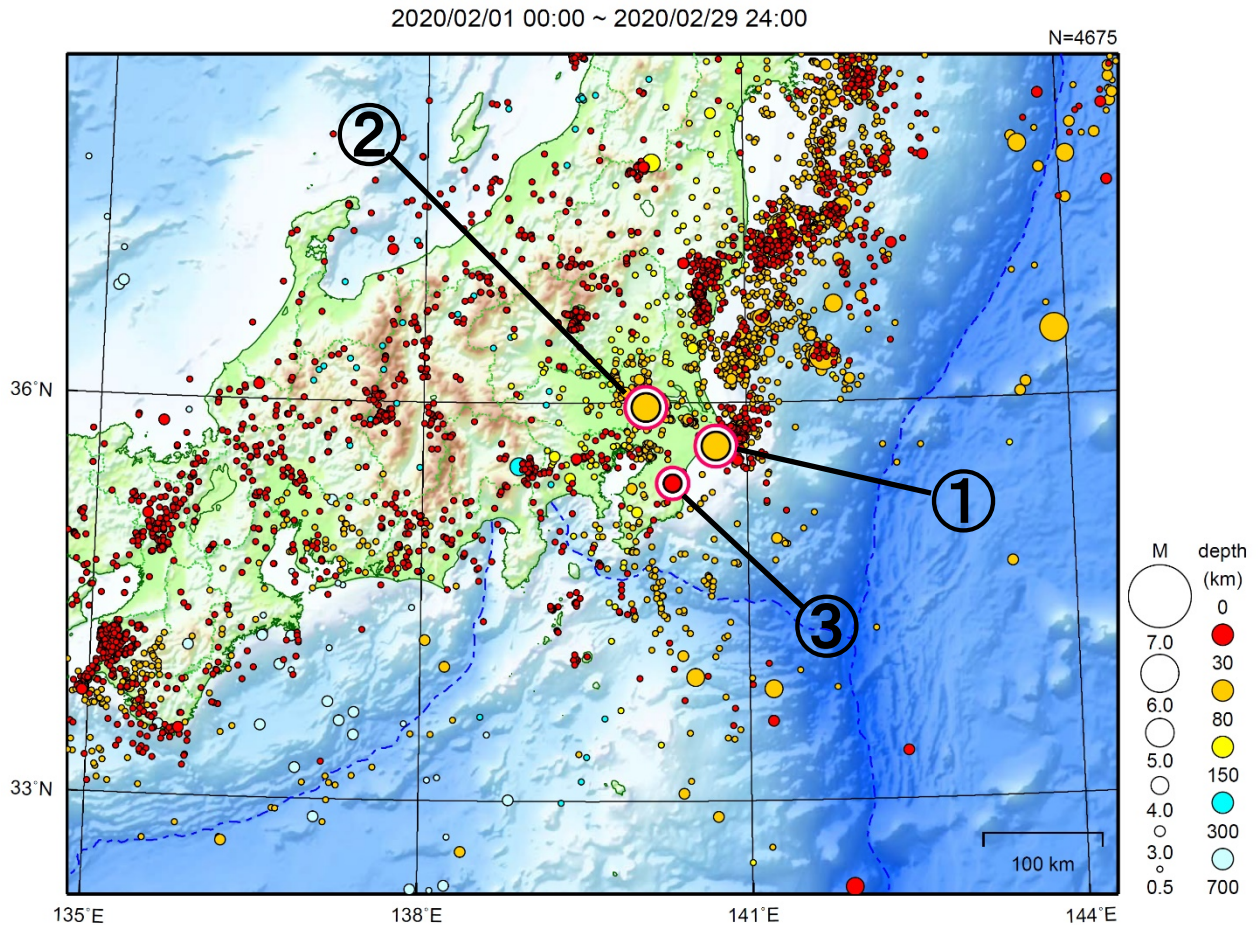


関東・中部地方



地形データは日本海洋データセンターのJ-EGG500、米国地質調査所のGTOP030、及び米国国立地球物理データセンターのETOP02v2を使用

- ① 2月1日に千葉県東方沖でM5.0の地震（最大震度3）が発生した。

情報発表に用いた震央地名は[千葉県北東部]である。

- ② 2月1日に茨城県南部でM5.3の地震（最大震度4）が発生した。

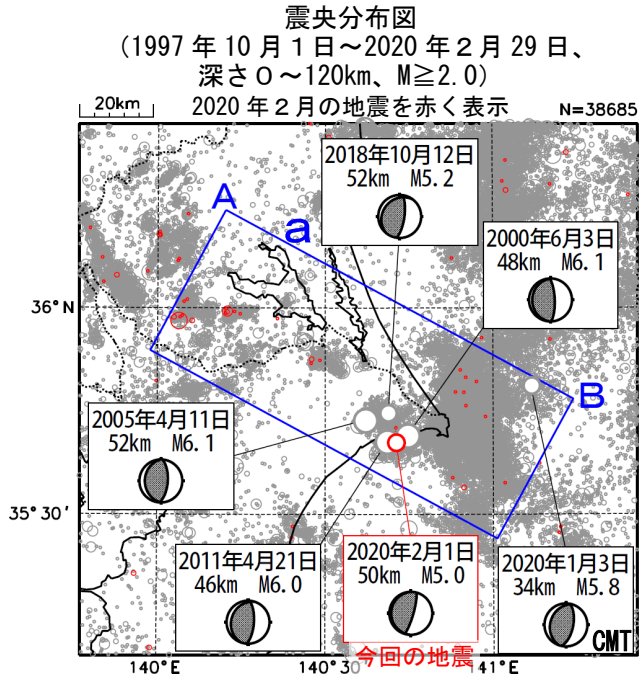
- ③ 2月20日に千葉県北東部でM4.3の地震（最大震度4）が発生した。

[上述の地震はM6.0以上または最大震度4以上、陸域でM4.5以上かつ最大震度3以上、海域でM5.0以上かつ最大震度3以上、その他、注目すべき活動のいずれかに該当する地震。]

気象庁・文部科学省

2月1日 千葉県東方沖の地震

情報発表に用いた震央地名は「千葉県北東部」である。

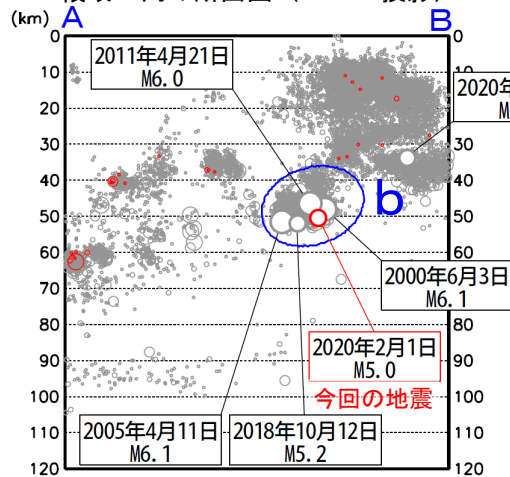


2020年2月1日01時11分に千葉県東方沖の深さ50kmで $M 5.0$ の地震（最大震度3）が発生した。この地震は発震機構が西北西－東南東方向に圧力軸を持つ逆断層型で、太平洋プレートとフィリピン海プレートの境界で発生した。

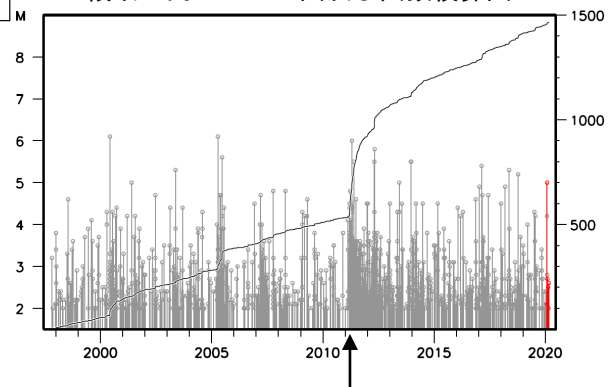
1997年10月以降の活動をみると、今回の地震の震央周辺（領域a）では、2020年1月3日の $M 5.8$ の地震（最大震度4）が発生している。今回の地震の震源付近（領域b）では、2000年6月3日の $M 6.1$ の地震（最大震度5弱）が発生するなど $M 6.0$ 以上の地震がたまに発生している。また、東北地方太平洋沖地震の発生以降は地震活動が活発になり、2018年10月12日の $M 5.2$ の地震（最大震度4）のような $M 5.0$ 以上の地震が時々発生している。

1919年以降の活動をみると、今回の地震の震央周辺（領域c）では、 $M 6$ 程度の地震が時々発生している。1987年12月17日に発生した千葉県東方沖の地震（ $M 6.7$ 、最大震度5）では、死者2人、住家全壊16棟などの被害が生じた（被害は「日本被害地震総覧」による）。

領域a内の断面図（A－B投影）



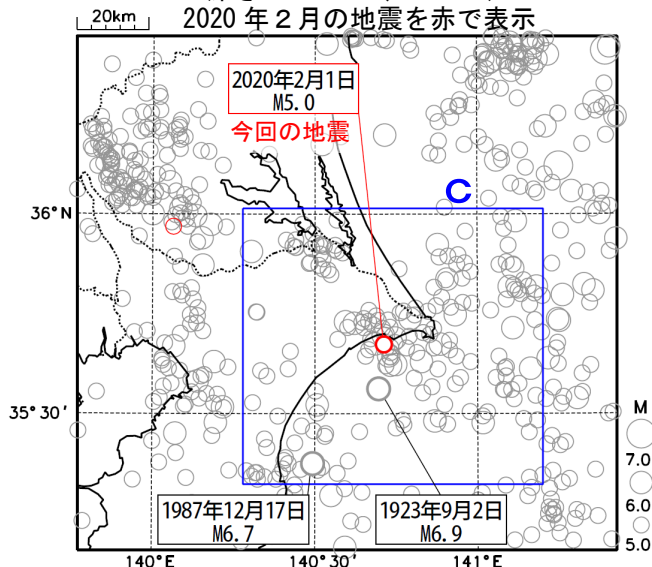
領域b内のM－T図及び回数積算図



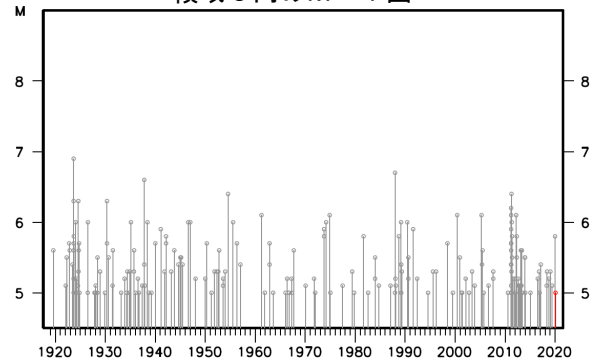
東北地方太平洋沖地震発生

震央分布図

(1919年1月1日～2020年2月29日、
深さ0～100km、 $M \geq 5.0$)
2020年2月の地震を赤で表示



領域c内のM－T図

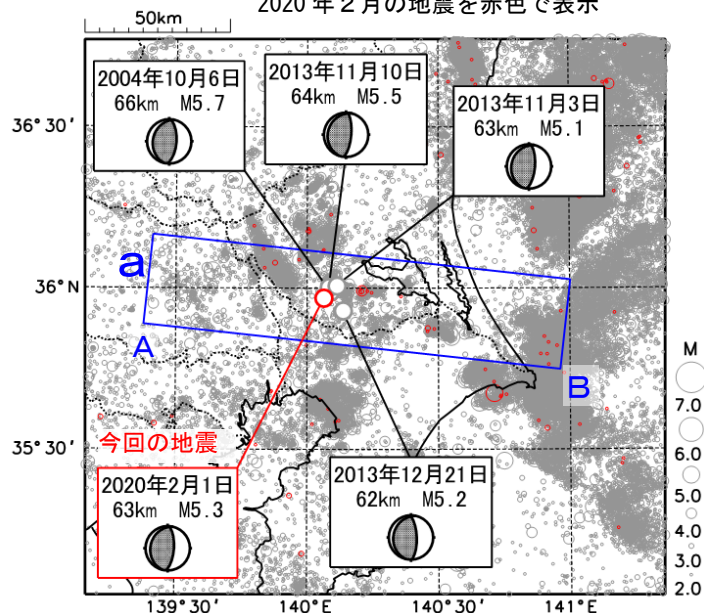


2月1日 茨城県南部の地震

震央分布図

(1997年10月1日～2020年2月29日、
深さ0～150km、 $M \geq 2.0$)

2020年2月の地震を赤色で表示

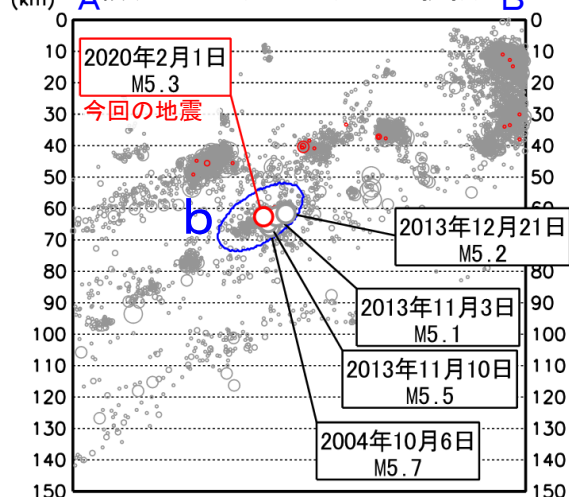


2020年2月1日02時07分に茨城県南部の深さ63kmで $M 5.3$ の地震 (最大震度4) が発生した。この地震は、発震機構が東西方向に圧力軸を持つ逆断層型で、太平洋プレートとフィリピン海プレートの境界で発生した。

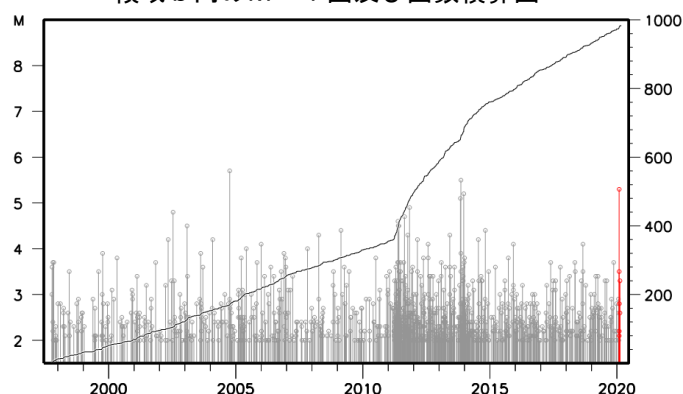
1997年10月以降の活動をみると、今回の地震の震源付近 (領域b) は、 $M 4.0$ 以上の地震がしばしば発生している。今回の地震の発生場所の近くでは、2004年10月6日に $M 5.7$ の地震 (最大震度5弱) が発生し、負傷者4人、水道管破裂等の被害を生じた (総務省消防庁による)。

1919年以降の活動をみると、今回の地震の震央周辺 (領域c) では、 $M 6.0$ 程度の地震が時々発生している。

領域a内の断面図 (A-B投影)



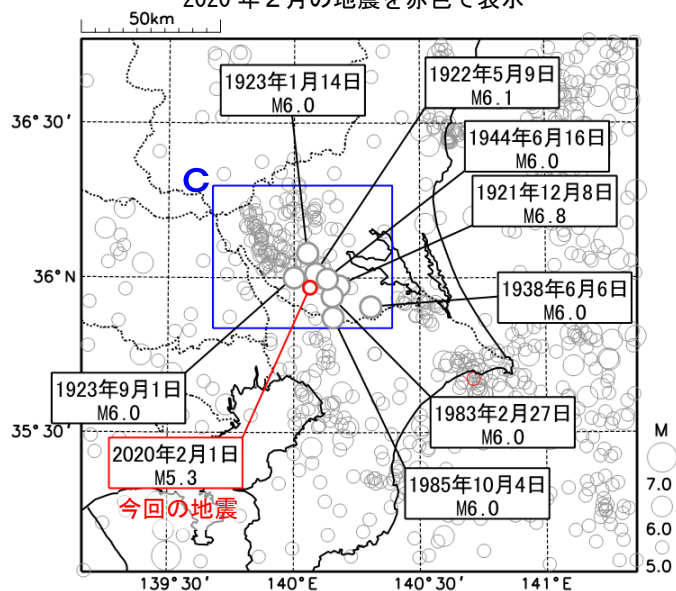
領域b内のM-T図及び回数積算図



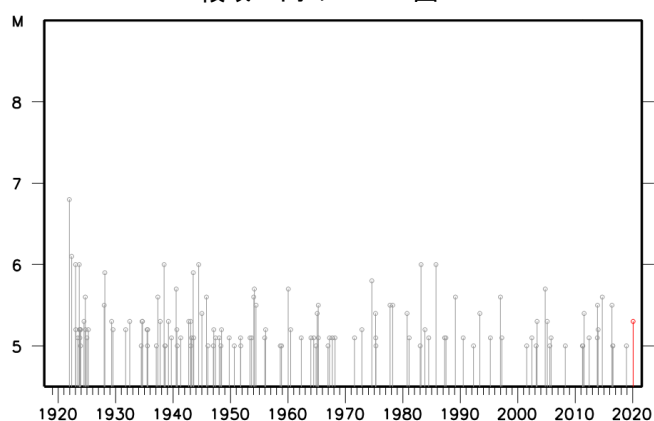
震央分布図

(1919年1月1日～2020年2月29日、
深さ0～150km、 $M \geq 5.0$)

2020年2月の地震を赤色で表示



領域c内のM-T図

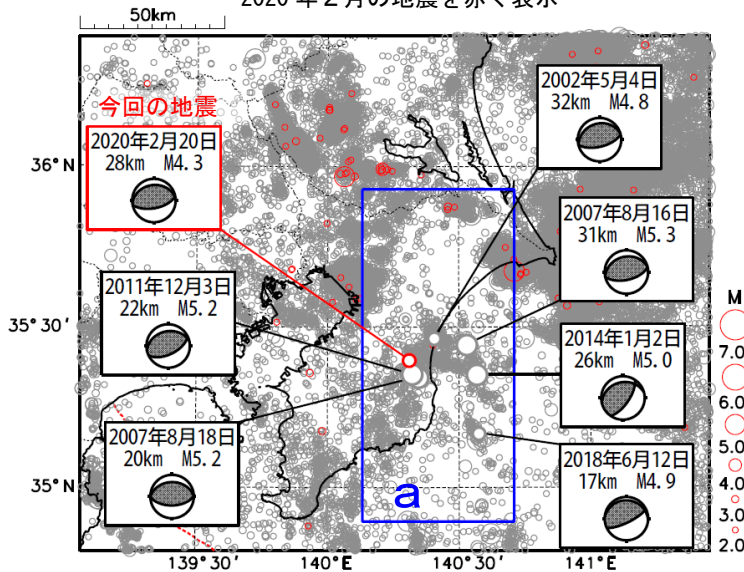


気象庁作成

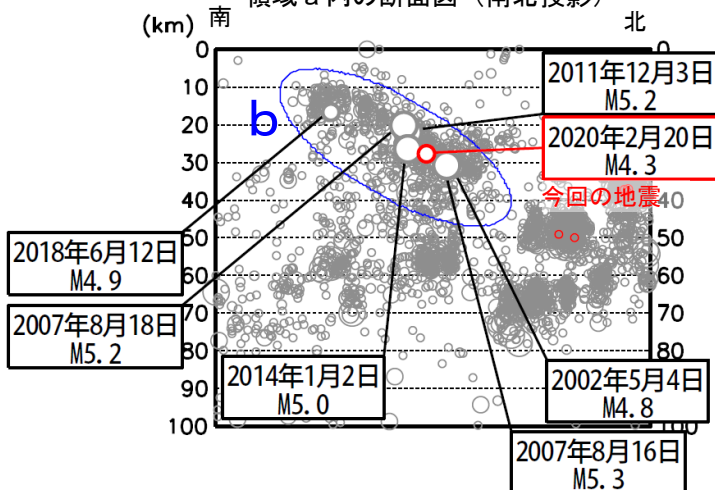
2月20日 千葉県北東部の地震

震央分布図

(1997年10月1日～2020年2月29日、
深さ0～100km、 $M \geq 2.0$)
2020年2月の地震を赤く表示



領域a内の断面図（南北投影）

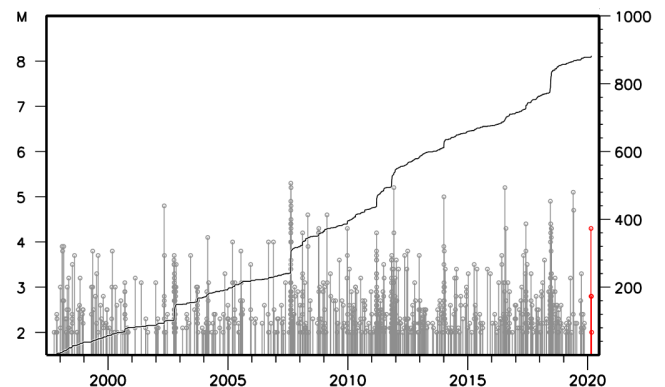


2020年2月20日12時53分に千葉県北東部の深さ28kmでM4.3の地震（最大震度4）が発生した。この地震の発震機構は北北西－南南東方向に圧力軸を持つ逆断層型で、フィリピン海プレートと陸のプレートの境界で発生した。

1997年10月以降の活動をみると、今回の地震の震源付近（領域b）では、M4.0からM5.0程度の地震が時々発生している。2018年6月12日には、深さ17kmでM4.9の地震（最大震度3）が発生し、震央付近ではまとまった地震活動が見られた。その地震活動と同期して、フィリピン海プレートと陸のプレートの境界においてゆっくりすべりが発生している（第319回地震調査委員会資料より）。

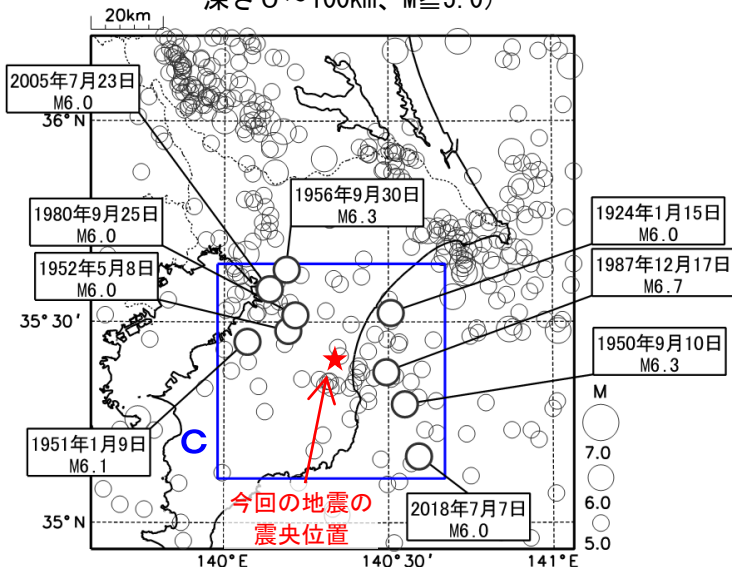
1919年以降の活動をみると、今回の地震の震央周辺（領域c）では、M6.0以上の地震が時々発生している。1987年12月17日に発生したM6.7の地震（最大震度5）では、死者2人、負傷者161人、住家全壊16棟、住家半壊102棟、住家一部破損72,580棟などの被害が生じた（被害は「日本被害地震総覧」による）。

領域b内のM-T図及び回数積算図

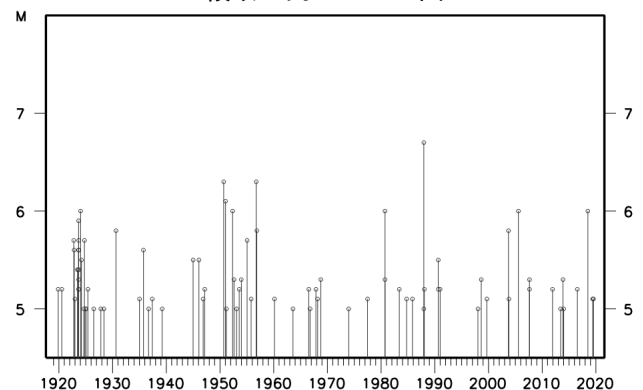


震央分布図

(1919年1月1日～2020年2月29日、
深さ0～100km、 $M \geq 5.0$)



領域c内のM-T図



気象庁作成